

「イタリアでの成長を糧に」

大村市立大村中学校 3年 原口 和

今回、僕は天正遣欧少年使節ゆかりの地海外派遣事業の団員として選ばれ、7泊8日イタリア共和国に行った。

その7泊8日間のイタリアでの出来事や文化、イタリアで食べたり知った料理などを一日ごとに発表する。

〈1日目〉

僕達は福岡国際空港で6市1町の人たちと集合し、結団式をした。結団式を終えたあと福岡国際空港から韓国の仁川空港まで1時間45分かかった。仁川空港を経由しローマの空港へ13時間の長旅をした。昼と夜は機内食だった。機内食ではウェスタン、コリアン、チャイニーズがあり、ウェスタンが牛肉でポテト中心、コリアンは韓国料理でチャイニーズが鶏肉中心のどちらも辛めでご飯がある機内食だった。僕は機内食を吃るのは初めてだったので、どのような味なのかとても楽しみにしていた。昼はウェスタンを頼んだ。ウェスタンの牛肉は一口サイズに切ってあり完食した。7時間後に夜の機内食が出た。昼のウェスタンが結構重たかったのでお腹がいっぱいになっていたが、僕はチャイニーズを頼んだ。チャイニーズでは、鶏肉にソースが掛けられており、そのソースに唐辛子が混ぜられていて辛く、すべて食べることができなかった。乗った飛行機が韓国の飛行機だったので、全体的に韓国風味であまり口に合わず、少し胃がムカムカした。

13時間の長旅を終えたあとホテルに泊まり、ぐっすり眠ることができた。

〈2日目〉

朝5時に起床し、疲れが溜まっていると思ったがあまり疲れてはいなかった。朝早くに男仲間みんなで散歩し、朝日を浴び気持ちが良かった。7時30分に朝食を食べ、朝食はバイキング形式で分厚いベーコンやチーズクロワッサンなどのパン類が置かれ、僕はベーコンやクロワッサンをたくさん食べ、満腹になった。午前中にサン・ジョバンニ・イン・ラテラノ大聖堂、サンタ・マリア・マッジョーレ大聖堂を訪れ、昼にピザ専門のレストランでピザを食べた。ピザは耳の部分がとても多くパンを吃てる気持ちになったがとても美味しかった。午後にバチカン美術館、システィーナ礼拝堂、サン・ピエトロ大聖堂へ行った。夕食は子牛の肉をハムで巻いて焼いた料理を食べた。あまり僕の口には合わなかったがグループで吃ることで美味しく感じ、完食できた。イタリアでは常に満腹で全体的にジャンキーな料理がたくさんあり、だからイタリアの人はみんな大きい人なんだなと感じた。その中で印象に残ったのは2つある。

1つ目は、サン・ジョバンニ・イン・ラテラノ大聖堂だ。そこでは360°見渡す限りの黄金が広がっておりとても大きく驚いた。

2つ目は、バチカン市国内のバチカン美術館だ。バチカン市国では入国手続きにトラブルがあり再度、入国手続きをしなければいけないという出来事が起ったが、美術館の中ではミサをやっていたり、有名な彫刻のラオコーンがあつたり、一面中絵画や石をはめ込んだ床などとても綺麗だった。

入国手続きのトラブルがあったので、たくさん歩き皆喉がカラカラで近くの売店で飲み物を買っていたが、僕はバスで買ったほうが安いと添乗員さんから言われバスで2本水を買おうと

思いバスに乗ったとき、イタリア語で「2本水をください」と言うと、水を2本貰うことができ、「お釣りがないから後でお金払ってね。」と言われ、バスを降りたときに、お金を払おうすると、バスドライバーさんが「お金は払わなくていいよ。」と笑いながら僕の頭を撫でて、イタリアの人はこんなに優しく愉快なんだと実感し心が温まった。

〈3日目〉

いつも通りに朝5時に起床した。この日はローマ最終日でローマ教皇に謁見したり、ローマと言えばの名所に行った日で朝8時に出発した。午前中はローマ教皇に謁見し、昼にレストランへ行き、イタリアでたくさん取れる魚、タラを揚げた料理を食べた。白身魚なので、骨が少なくて美味しかった。

昼食を終えたあとコロッセオ、スペイン広場、トレビの泉へ行った。全て回り、疲れてくたくたになった後ローマを抜けフィレンツエへ。3時間30分かけ小雨が降っている中ホテルへ到着。荷物をおろした後夕食のレストランへ向かった。夕食はTボーンステーキだった。初めて食べる料理で、骨がTの字になった大きい肉を四人で分けて食べるようになっており、とても美味しかった。しかし満腹で少ししか食べることができなかつたのがとても悔しい。その中で印象に残つたのは2つある。

1つ目は、ローマ教皇に謁見したときの出来事だ。ローマ教皇に謁見したとき、僕は静かなイメージなのかなと思っていたが、会場では団体名が呼ばれたりグループが会場にある画面に映されたり、ローマ教皇がお礼を言ったりするときなど野球観戦をするときの応援くらい大きな声を出していた人がほとんどで、ローマ教皇がお話されてるのにこんな大きな声を出していいのかなと思い驚いた。

2つ目は、トレビの泉だ。トレビの泉に行く前、日差しがとても強く暑かったのにトレビの泉があるエリアではとても涼しく、気持ちの良い時間を過ごすことができコインを右手で持ち左肩から投げると願いが叶うと言われていて、僕も投げると結構遠くに飛んで行ったことが印象に残り、ローマ最終日とても楽しい時間を過ごすことができた。

〈4目目〉

ローマを抜けフィレンツエのホテルのバイキングの朝食を食べた。この日のホテルも前のホテルのバイキングと似ていてベーコンや果物パン類、チーズなどが置かれていて、パン中心で食べました。8時30分出発で、ホテルを出てバスに荷物を積んだ後、徒歩でホテルの近くにあるルネサンスを代表する名画ミケランジェロやダヴィンチラファエロなどが書いた名画が所蔵されているウフィツィ美術館に行った後、花の聖母時ドゥオモに行き、ヴェッキオ橋というフィレンツエ最古の橋を下車観光した。ヴェッキオ宮殿へ行った後、ホテルでペンネットパスタといういわゆるペンネとティラミスのアイスを食べた。イタリアのレストランでは、常にパルミジヤーノ・レッジャーノというチーズを削った粉チーズが置かれており、僕はペンネにかけて食べ、とても美味しかった。昼食を終えたあとフィレンツエを抜けボローニャへ。1時間30分かけてボローニャへ着き、明日の朝食を買いにスーパーマーケットへ行った。とても大きいクロワッサンが売ってあり買おうとしたが買い方がわからなかつたので他に買っている人の見様見真似でやってみると、そこのマーケットでは、機械が置かれておりパンをグラムごとに計り、番号を入力したら商品のバーコードのシールが出てきてそれをパンの袋に貼ってレジに行くという日本ではありえない特殊な買い方だなと思った。ホテルへ荷物を置きに行った後夕食を食べにレストランに行つ

た。夕食ではボロネーゼ、ローストポーク、ベイクドポテトを食べた。僕はレモンが大好きなので、ローストポークの横に置かれている半月状に切られたレモンをローストポークにかけ、残った身を食べた。イタリアのレモンは少しみかんのような甘酸っぱい味がして、ローストポークや他の料理もとても美味しかった。イタリアのレストランは日本で言うドラマに出てくるような高級なレストランの感じだと 4 日目で実感した。その中で特に印象に残ったのは 2 つある。

1 つ目は、ローマとフィレンツエの町並みが国が変わったかのように違ったことに驚いたことだ。なぜそのように町並みが違ったかと言うと昔イタリアは独立した国が集まりだったからとうことがわかりとても驚いた。

2 つ目は、ウフィツィ美術館についてだ。美術館にはやはり教科書にのるような絵画がたくさんあり、ルネサンス全盛期の絵画や、ルネサンス前の時代に描かれた絵画がたくさんあり、部屋一面が彫刻や絵でとても驚いたことがとても印象に残った。

〈 5 日目 〉

朝スーパーで買ったクロワッサンを食べた後 7 時 30 分ホテルを出発し、8 時 15 分頃港に到着し、ボートで水の都ベネチアへ。ボートでは頭を出して海が見れる窓がありそこから見る海の景色はとてもきれいだった。ベネチアでは、とてもきれいなリアルト橋や、サン・マルコ広場やサンマルコ寺院、ドゥカーレ宮殿へ行き、昼にイカが入った名物イカ墨のパスタを食べた。それは見た目と違ってクリーミーでみんな歯が黒くならなかつたのでわざと黒くする仲間もいた。昼食を終えた後ガラス職人のところへ行き、ガラスづくりを生で見た。目の前で馬の形をしたガラスを作つて見せてくれてとても圧倒された。

ガラス工房を見た後、ゴンドラ体験をし、ベネチアを抜けメストレのホテルへ行った。初日と同じ系列のホテルで夕食に冷製スープや焼きナスパンナコッタなどを食べた。冷製スープは冷たく美味しかった。その中で印象に残ったのは、ベネチアの出来事だ。

ベネチアでは干潟を埋め立ててできているのでマンホールから水が溢れたり、微弱に揺れたりしたことやゴンドラ体験で楽器を弾く人と歌い手が乗り、カンツオーネや禁じられた遊びを弾いている人がいたことや、ゴンドラに乗っているとき僕が手を降ると振り返してくれる外国人や日本人がいたことに、海外の人達はとても温かいんだなと改めて実感した。

〈 6 日目 〉

八時に出発しメストレを抜けミラノへ 3 時間 30 分かかった。ミラノに着いた後、昼食を食べた。昼食は子牛の肉を薄く叩いて伸ばしたミラノ風カツレツだった。ナイフを使って食べたがとても硬かったので繊維方向に切るとうまく切れた。昼食後お土産を購入する時間があり、何を買っていこうか迷ったが買うことができた。

お土産を買った後オペラの殿堂スカラ座へ。劇はなかったが、たくさんの音楽家が使っていた楽器があり、再度芸術の国なんだなと圧倒された。

次に世界最大の司教区ドゥオモ博物館へ行った。ホテルへ着いた後ホテルを出てレストランへ夕食はショートパスタだった。イタリアのレストランでは主に三品コースが多く最初が炭水化物次に野菜次にメインのものという仕組みになっていることを知った。その中で印象に残ったのは 2 つある。

1 つ目は、やはり一つ一つの町が大きく違うことだ。例えばローマやフィレンツエなどでは歴史的建造物が多いので景観保護の観点から建物が低い。一方第二の首都ともいわれるミラノでは

建物がとても高かったり高いビルがあったりと都会のような雰囲気だった。僕は個人的にミラノは都会のところとカレンダーに出てくるような町並みが混在している感じで好きだ。

2つ目は世界最大の司教区ドゥオモの博物館についてだ。そこではキリストの絵や聖書の物語が描かれているステンドグラスが張り巡らされており大迫力だったが、人が多く展示物にぶつからないかハラハラしたことが印象に残った。

〈7日目・8日目〉

朝食はいつも通り同じ系列のホテルで、すべて知っている食べ物だったのでたくさん食べた。9時にホテルを出発したが、半日雨だったので急遽買い物を先にすることになった。ミラノは北海道よりも上の緯度にあることからとても寒かった。

雨がやみ、フォトロゲイニングというグループで指定された場所で写真を取りポイントを競うという遊びをした。僕達のチームは楽しみながらぼちぼち行くというやり方だったので優勝はできなかつたが楽しかった。

フォトロゲイニングを終えたらミラノ空港から仁川空港へ十時間の旅で、寝ていたので起きたら残り2時間で到着と座席の画面に書いてあり、もう終わるのか寂しさを感じた。仁川空港へ着き福岡国際空港へ。1時間仁川空港は夕方の四時くらいで時間の感覚が掴めずここで少し時差ボケをした。福岡国際空港につくとどつと疲れが押し寄せ帰ってぐっすり眠れた。

最後に、この経験ができたのもこの事業を支えてくれた市役所職員の方々や市、随行員や添乗員さん、家族など沢山の人の支えがあって成り立ったことだと思うのでとても感謝をしている。この体験から得たものを将来役立てるために、まだ海外に行ったことがない人に伝え忘れないようにしたいと思う。

